

スーパーマーケット販売統計調査資料

2025年8月実績 速報版

7月実績 確報版

(2025年9月24日公表)

調査資料概要

【パネル 270 社集計】

食品を中心に扱うスーパーマーケットを対象に同一企業を集計

【集計項目】

商品分類別・エリア別・保有店舗別集計

集計企業数、総店舗数、総売場面積、店舗平均月商、売場1㎡あたり売上高

【速報版・確報版】

速報版:前月販売実績を速報値として公表 確報版:速報値に精度の高い集計を加え確報値として公表

【全店・既存店】

全店:前年同月全営業店舗と当月全営業店舗の比較 既存店:前年同月、当月共に営業の店舗による比較

【商品分類】

総売上高	食品合計	生鮮三部門	青果	野菜類、果実類、花
			水産	魚介類、塩干物
			畜産	食肉類、肉加工品
		惣菜		惣菜、折詰料理、揚物、弁当、おにぎり、寿司、インスタアベーカー、ファーストフード
		日配		豆腐、こんにゃく、納豆、練製品、佃煮、漬物、パン、卵、乳製品、生菓子、冷凍食品、アイスクリーム
		一般食品		調味料、瓶詰詰、乾物、米、小麦粉、乾麺、嗜好品、菓子、酒類
		非食品		日用雑貨品、医薬・化粧品、家具インテリア、家電製品、婦人衣料、紳士衣料、文具、玩具
その他		テナント売上高、タバコ・ギフト販売、その他取次業(DPE、クリーニング、宅配便、レンタル、チケット販売等)		

【地方分類】

北海道・東北地方	北海道、青森、岩手、秋田、宮城。山形、福島
関東地方	茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川
中部地方	新潟、富山、石川、福井、山梨、長野、岐阜、静岡、愛知
近畿地方	三重、滋賀、奈良、和歌山、京都、大阪、兵庫
中国・四国地方	岡山、広島、鳥取、島根、山口、香川、徳島、愛媛、高知
九州地方・沖縄地方	福岡、佐賀、長崎、大分、熊本、宮崎、鹿児島、沖縄
北日本日本海側	北海道の日本海側とオホーツク海側(宗谷南部)、東北日本海側
太平洋側	北海道の太平洋側とオホーツク海側(網走・北見・紋別地方)、東北太平洋側
東日本日本海側	北陸地方
太平洋側	関東甲信、東海地方
西日本日本海側	近畿日本海側、山陰、九州北部地方
太平洋側	近畿太平洋側、山陽、四国、九州南部
沖縄・奄美	鹿児島県奄美地方、沖縄地方

一般社団法人 全国スーパーマーケット協会

一般社団法人 日本スーパーマーケット協会

オール日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査に関するお問い合わせ

tokei@super.or.jp

2025年9月24日

一般社団法人 全国スーパーマーケット協会
 一般社団法人 日本スーパーマーケット協会
 オール日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査 2025年8月実績 速報版 (パネル270)

	全店売上高 (万円)	構成比	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
総売上高	116,423,311	100.0%	102.4%	101.4%
食品合計	106,976,336	91.9%	102.7%	101.7%
生鮮3部門合計	38,566,034	33.1%	102.3%	101.2%
青果	16,432,918	14.1%	101.6%	100.6%
水産	9,417,108	8.1%	102.2%	100.9%
畜産	12,716,008	10.9%	103.3%	102.0%
惣菜	13,619,280	11.7%	105.1%	103.6%
日配	23,647,340	20.3%	104.1%	103.2%
一般食品	31,143,682	26.8%	101.1%	100.4%
非食品	6,728,425	5.8%	96.7%	96.5%
その他	2,718,586	2.3%	99.2%	98.2%

地方分類別集計

エリア	全店売上高 (万円)	集計対象企業数	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
北海道・東北地方	16,275,015	43	104.2%	102.5%
関東地方	42,244,901	73	102.5%	101.7%
中部地方	14,687,011	53	103.2%	101.9%
近畿地方	25,447,187	44	101.2%	100.2%
中国・四国地方	11,956,032	34	102.4%	101.6%
九州・沖縄地方	5,813,166	23	98.0%	98.3%

保有店舗数別集計

保有店舗数	全店売上高 (万円)	集計対象企業数	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
1~3店舗	572,426	46	96.5%	98.1%
4~10店舗	4,921,696	84	100.5%	100.3%
11~25店舗	9,734,037	49	103.3%	102.1%
26~50店舗	20,628,678	45	102.4%	101.5%
51店舗以上	80,566,475	46	102.4%	101.3%
集計企業数 (社)	270	既存店総売上高 (万円)	114,101,193	
総店舗数 (店舗)	8,405	店舗平均月商 (万円)	13,852	
総売場面積 (㎡)	14,102,286	売場 1㎡あたり売上高 (万円)	8.3	

※売上高は税抜金額

※売上高は千円以下、構成比・前年同月比は小数点第2位以下四捨五入

2025年9月24日

一般社団法人 全国スーパーマーケット協会
 一般社団法人 日本スーパーマーケット協会
 オール日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査
 2025年7月実績 確報版 (パネル270)

	全店売上高 (万円)	構成比	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
総売上高	110,466,920	100.0%	105.2%	104.2%
食品合計	101,636,135	92.0%	105.8%	104.7%
生鮮3部門合計	35,995,921	32.6%	103.5%	102.4%
青果	14,551,577	13.2%	103.3%	102.4%
水産	9,269,002	8.4%	102.7%	101.4%
畜産	12,175,342	11.0%	104.4%	103.2%
惣菜	12,441,324	11.3%	106.3%	104.7%
日配	22,932,579	20.8%	106.4%	105.3%
一般食品	30,266,311	27.4%	107.9%	107.0%
非食品	6,318,470	5.7%	98.0%	98.1%
その他	2,512,364	2.3%	101.0%	100.2%

地方分類別集計

エリア	全店売上高 (万円)	集計対象企業数	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
北海道・東北地方	14,815,273	43	105.6%	103.8%
関東地方	41,292,391	73	105.8%	104.9%
中部地方	13,464,902	53	105.9%	104.8%
近畿地方	24,212,002	44	105.4%	104.0%
中国・四国地方	11,162,267	34	104.0%	104.4%
九州・沖縄地方	5,520,085	23	99.5%	99.7%

保有店舗数別集計

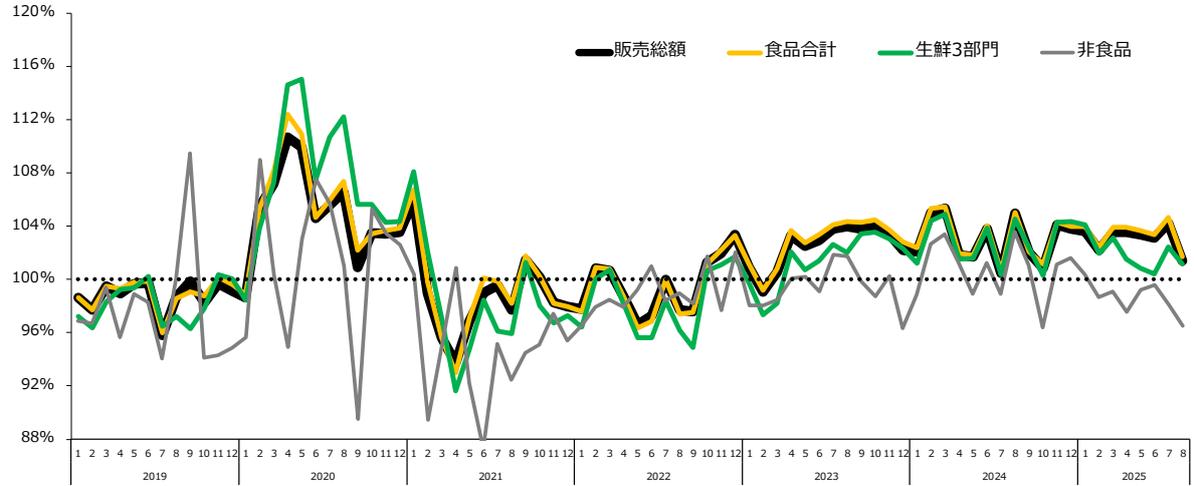
保有店舗数	全店売上高 (万円)	集計対象企業数	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
1~3店舗	543,341	46	100.9%	102.4%
4~10店舗	4,585,749	84	102.3%	102.6%
11~25店舗	8,787,051	48	105.2%	104.0%
26~50店舗	19,458,574	46	104.9%	104.0%
51店舗以上	77,092,205	46	105.5%	104.4%
集計企業数 (社)	270	既存店総売上高 (万円)	108,360,700	
総店舗数 (店舗)	8,408	店舗平均月商 (万円)	13,138	
総売場面積 (㎡)	14,104,029	売場1㎡あたり売上高 (万円)	7.8	

※売上高は税抜金額

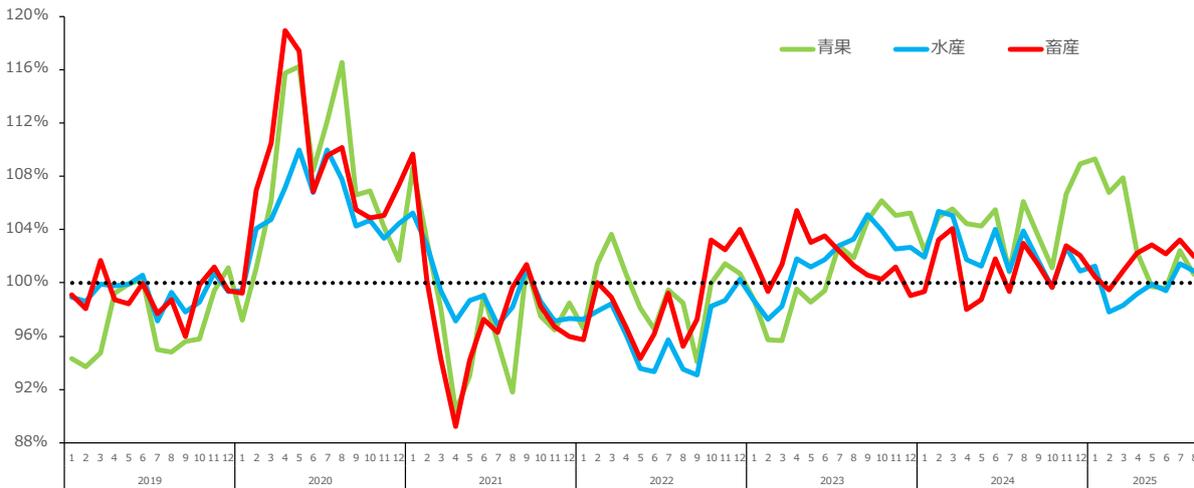
※売上高は千円以下、構成比・前年同月比は小数点第2位以下四捨五入

スーパーマーケット販売統計調査 前年同月比（既存店）推移 2019年1月～

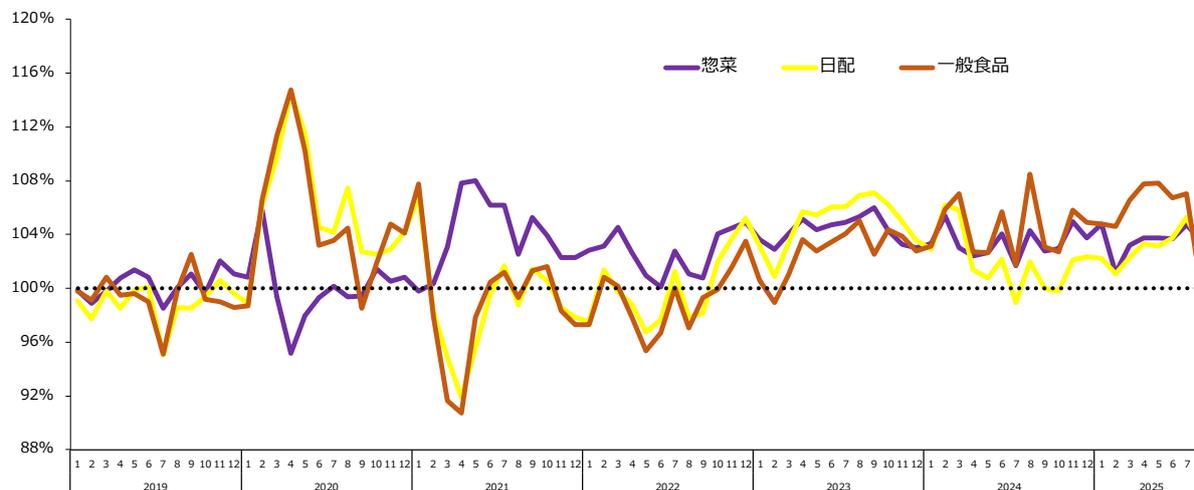
総売上高・食品合計・生鮮3部門・非食品



青果・水産・畜産



惣菜・日配・一般食品



※2025年8月実績は速報版

2025年8月 エリア別気候状況

8月の気温：北・東・西日本でかなり高かった

上旬：北日本、東日本ではかなり高かった。西日本では高かった。

中旬：北日本ではかなり高かった。東日本、西日本では高かった。

下旬：北日本、東日本、西日本ではかなり高かった。

2024年8月との比較：上旬西日本で前年よりやや低く、下旬は東日本太平洋側でやや高くなった

	平年との比較 (°C)						今年と前年との差 (°C)		
	2025年8月 (今年)			2024年8月 (前年)			上旬	中旬	下旬
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
北日本 日本海側	2.2	2.2	2.3	1.4	1.8	2.6	0.8	0.4	-0.3
太平洋側	2.9	3.1	2.8	2.4	2.2	2.8	0.5	0.9	0.0
東日本 日本海側	0.7	0.8	3.0	0.5	1.2	2.7	0.2	-0.4	0.3
太平洋側	1.8	1.3	3.1	1.9	2.5	1.4	-0.1	-1.2	1.7
西日本 日本海側	0.5	1.0	2.4	2.0	1.5	2.1	-1.5	-0.5	0.3
太平洋側	1.0	0.8	1.8	2.0	1.4	1.6	-1.0	-0.6	0.2

平年差

+2°C以上

+1°C以上

-2°C以上

-1°C以上

前年差

+2°C以上

+1°C以上

-2°C以上

-1°C以上

8月の日照時間：全国的に多かった

上旬：西日本日本海側、西日本太平洋側では少なかった。

中旬：北日本太平洋側ではかなり多かった。北日本日本海側、東日本、西日本では多かった。

下旬：東日本ではかなり多かった。北日本太平洋側、西日本では多かった。

2024年8月との比較：上旬は西日本を中心にやや少なく、下旬は全国的に多くなった

	日照時間 平年比 (%)						今年と前年との差		
	2025年8月 (今年)			2024年8月 (前年)			上旬	中旬	下旬
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
北日本 日本海側	101	135	101	88	99	91	13	36	10
太平洋側	102	157	120	99	83	74	3	74	46
東日本 日本海側	90	118	159	116	99	91	-26	19	68
太平洋側	106	112	162	128	122	72	-22	-10	90
西日本 日本海側	79	129	143	147	137	106	-68	-8	37
太平洋側	94	117	128	142	131	102	-48	-14	26

平年差

平年比150%以上

平年比125%~149%

平年比50%以下

平年比51%~75%

前年差

+50%以上

+25~49%

-50%以下

-25~-49%

8月の降水量：東日本日本海側でかなり多かった

上旬：東日本日本海側、西日本日本海側ではかなり多かった。北日本、東日本太平洋側、西日本太平洋側では多かった。

中旬：北・東・西日本日本海側では多かった。東日本太平洋側では少なかった。

下旬：北日本日本海側では多かった。東日本太平洋側ではかなり少なかった。東・西日本日本海側では少なかった。

2024年8月との比較：上旬は全国的にかなり多く、中旬は日本海側で多く、太平洋側で少なく、下旬は全国的にかなり少なくなった

	降水量 平年比 (%)						今年と前年との差		
	2025年8月 (今年)			2024年8月 (前年)			上旬	中旬	下旬
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
北日本 日本海側	166	133	129	52	58	152	114	75	-23
太平洋側	124	89	64	58	138	167	66	-49	-103
東日本 日本海側	560	155	41	12	21	73	548	134	-32
太平洋側	120	47	11	81	115	422	39	-68	-411
西日本 日本海側	414	156	40	12	25	229	402	131	-189
太平洋側	141	71	75	24	108	311	117	-37	-236

平年差

平年比150%以上

平年比125%~149%

平年比50%以下

平年比51%~75%

前年差

+50%以上

+25~49%

-50%以下

-25~-49%

気象庁ホームページ「2025年8月の気候」を参考に事務局作成

スーパーマーケット景気動向調査

2025年9月調査結果（8月実績）
（2025年9月24日公表）

スーパーマーケット中核店舗を対象として経営動向や景気判断を調査し、月次でスーパーマーケット経営を取り巻く内外の環境変化を定量的に明らかにすることを目的としています。またスーパーマーケット販売統計調査における売上変動の要因やカテゴリー別好不調要因を補足する役割を果たすことも期待しています。

【経営動向調査】

1. 経営状況：「売上」「収益」「生鮮品仕入原価」「食品仕入原価」「販売価格」「客単価」「来客数」スーパーマーケット中核店舗における各経営状況について

- ・前年同月と比較し「かなり増加」から「かなり減少」までの5段階で評価
- ・前年同月を100とした当月の値を調査 ※2014年4月実績より

2. カテゴリー動向：「青果」「水産」「畜産」「惣菜」「日配」「一般食品」「非食品」スーパーマーケット中核店舗における各カテゴリーに販売動向について、

- ・前年同月と比較し「かなり好調」から「かなり不調」までの5段階で評価
- ・各カテゴリーの好不調要因についてのコメント

経営動向調査DI (Diffusion Index) の算出方法

回答構成比(%)に以下の点数を乗じてDIを算出

かなり改善+0.5・やや改善+0.25・変わらない±0・やや悪化-0.25・かなり悪化-0.5

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DIは「0」

【景況感調査】

1. 景況感：「景気状況」「消費者購買意欲」「店舗周辺の競合状況」「店舗周辺地域の景気」について、

- ・2～3ヵ月前と比較した現状について「かなり改善」から「かなり悪化」まで5段階で評価
- ・今後2～3ヵ月の見通しについて「かなり改善」から「かなり悪化」までの5段階で評価

景況感DI (Diffusion Index) の算出方法

回答構成比(%)に以下の点数を乗じてDIを算出

かなり改善+1.0・やや改善+0.75・変わらない+0.5・やや悪化+0.25・かなり悪化+0

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DIは「50」

一般社団法人 全国スーパーマーケット協会
一般社団法人 日本スーパーマーケット協会
オール日本スーパーマーケット協会

9月調査（8月実績）結果概況

米販売落ち着き現状、見通し共に悪化

8月のスーパーマーケット中核店舗における景気判断 DI の現状判断は前月から-4.0 の 46.1、見通し判断が前月から-3.2 の 42.6 となり、共に悪化をみせた。

経営動向調査では、売上高 DI がプラス圏を維持しているものの、前月からは大きく下落。収益 DI も前月から下落し、マイナス圏となった。生鮮品仕入原価 DI、食品仕入原価 DI は、前月から小幅に下落したものの高水準を維持しているが、客単価 DI と来客数 DI は前月から下落し、来客数 DI はマイナス圏での推移となった。

カテゴリー動向調査では、水産 DI を除くすべてのカテゴリーで前月より下落した。前年の南海トラフ地震臨時情報発表や台風接近による備蓄需要の反動を受けたカテゴリーでは下落幅が大きくなった。特に一般食品 DI は、米の販売が落ち着き、単価上昇効果が一巡したことも加わり、大幅な下落となった、一方、猛暑による調理敬遠志向などを背景に、惣菜 DI は二桁プラス圏を維持している。（カテゴリー別動向に詳細掲載）

景況感調査は現状、見通しともに悪化し、特に見通し判断は低水準での推移が続いており、先行きへの不透明感が強い。（長期傾向は P11 参照）

7月に続き8月も記録的な猛暑を受け、夏物商材が好調。お盆時期の販売も順調に推移した店舗が多かったが、前年の災害に備えた特需からの反動もあり、数字上、前年同月とは全く異なる結果となった。新米も高単価傾向だが高騰効果も一巡し、今後は売上高前年同月比の鈍化が予想される。食品の値上げ傾向は継続しており、前年の実績だけにとらわれず、足元の消費基調を見誤ることのないよう慎重な判断が求められる。

現状判断

景気判断DI
当月：46.1 (-4.0)
前月：50.1

消費者購買意欲DI
当月：43.8 (-1.9)
前月：45.7

周辺地域 競合状況DI
当月：44.5 (-1.0)
前月：45.5

店舗周辺地域 景気判断DI
当月：47.6 (-0.4)
前月：48.0

見通し判断

景気判断DI
当月：42.6 (-3.2)
前月：45.8

消費者購買意欲DI
当月：43.0 (-0.8)
前月：43.8

周辺地域 競合状況DI
当月：42.1 (-1.2)
前月：43.3

店舗周辺地域 景気判断DI
当月：46.4 (+0.2)
前月：46.2

経営動向調査 経営状況

売上高DI
当月：2.6 (-10.5)
前月：13.1

客単価DI
当月：10.7 (-4.8)
前月：15.5

来客数DI
当月：-8.7 (-7.9)
前月：-0.8

収益DI
当月：-4.2 (-8.8)
前月：4.6

販売価格DI
当月：20.4 (-4.0)
前月：24.4

生鮮品仕入原価DI
当月：17.4 (-3.1)
前月：20.5

食品仕入原価DI
当月：20.1 (-5.2)
前月：25.3

カテゴリー動向

青果DI
当月：-1.6 (-7.1)
前月：5.5

水産DI
当月：1.1 (+0.6)
前月：0.5

畜産DI
当月：4.2 (-0.1)
前月：4.3

惣菜DI
当月：13.2 (-2.6)
前月：15.8

日配DI
当月：4.0 (-7.4)
前月：11.4

一般食品DI
当月：-5.2 (-23.3)
前月：18.1

非食品DI
当月：-16.7 (-12.4)
前月：-4.3

※DI 値は前年同月との比較 / () 内は前月 DI からの変化

結果詳細 I. 経営動向調査 (2014年1月～)

1. 売上高DI

プラス圏を維持も前月から急落

回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
売上高 (前月)	1.8	15.2	24.4	45.7	12.8	13.1
売上高 (当月)	4.2	25.7	32.6	30.6	6.9	2.6



2. 収益DI

前月から下落し、マイナス圏に

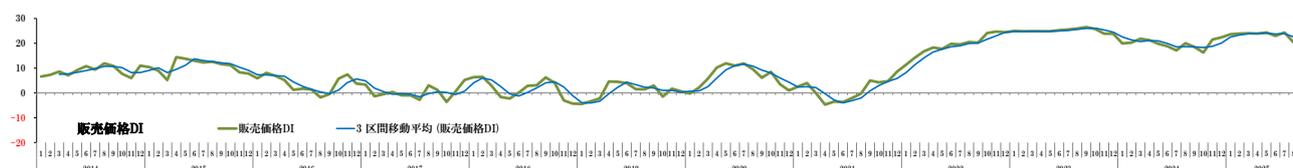
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
収益 (前月)	4.3	20.9	33.7	34.4	6.7	4.6
収益 (当月)	8.4	29.4	37.1	21.0	4.2	-4.2



3. 販売価格DI

前月から下落も、二桁プラス水準で推移

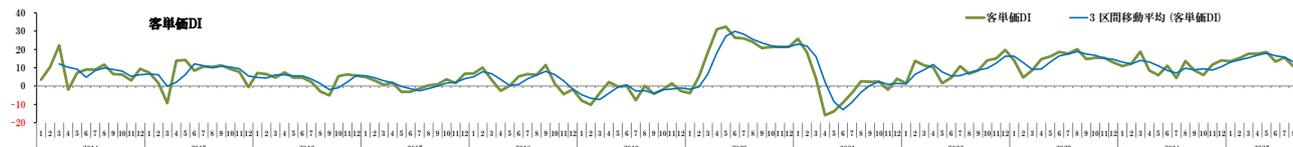
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
販売価格 (前月)	0.0	0.6	12.9	74.8	11.7	24.4
販売価格 (当月)	0.0	2.1	20.6	70.9	6.4	20.4



4. 客単価DI

前月から下落も、二桁プラス水準を維持

回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
客単価 (前月)	0.6	6.7	29.9	55.5	7.3	15.5
客単価 (当月)	0.7	11.2	35.0	51.0	2.1	10.7



5. 来客数 DI

前月から下落し、マイナス幅を拡大

回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
来客数 (前月)	4.3	26.8	39.6	26.2	3.0	-0.8
来客数 (当月)	7.7	38.5	36.4	16.1	1.4	-8.7



6. 生鮮仕入原価 DI

前月から下落も、二桁プラス水準で推移

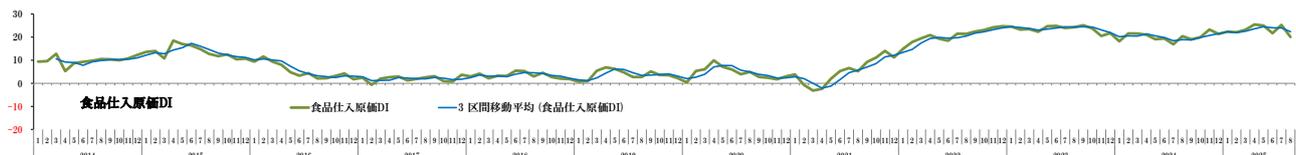
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
生鮮仕入原価 (前月)	0.0	5.6	18.1	65.0	11.3	20.5
生鮮仕入原価 (当月)	0.7	7.2	25.4	55.1	11.6	17.4



7. 食品仕入原価 DI

前月から下落も、52 か月連続プラス圏

回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
食品仕入原価 (前月)	0.0	2.5	13.2	64.8	19.5	25.3
食品仕入原価 (当月)	0.7	6.6	19.7	57.7	15.3	20.1

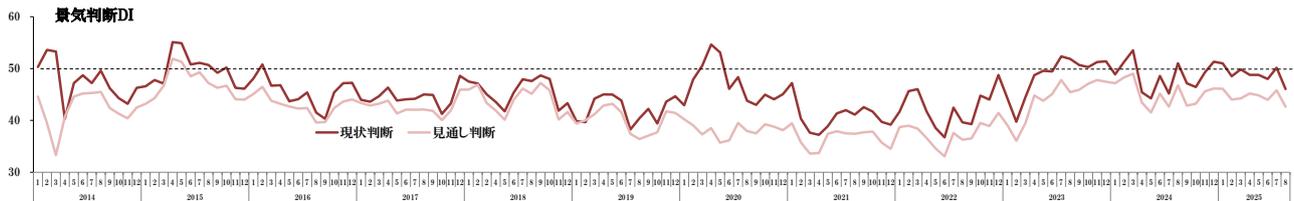


II. 景況感調査 (2014年4月～/周辺地域景況判断 2010年4月～)

1. 中核店舗景況判断 DI

現状・見通し判断共に悪化、現状判断が50を割り込む

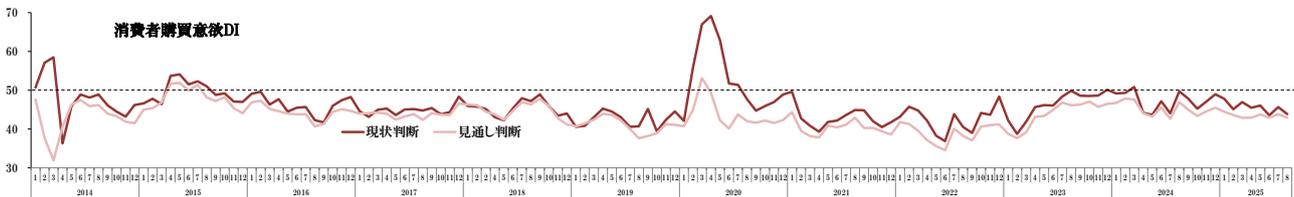
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】景況判断 (前月)	0.6	19.2	59.9	19.8	0.6	50.1
【現状】景況判断 (当月)	1.4	26.0	59.6	13.0	0.0	46.1
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】景況判断 (前月)	1.8	24.0	63.5	10.8	0.0	45.8
【見通し】景況判断 (当月)	2.1	32.9	57.5	7.5	0.0	42.6



2. 消費者購買意欲 DI

現状・見通し判断共に小幅な悪化

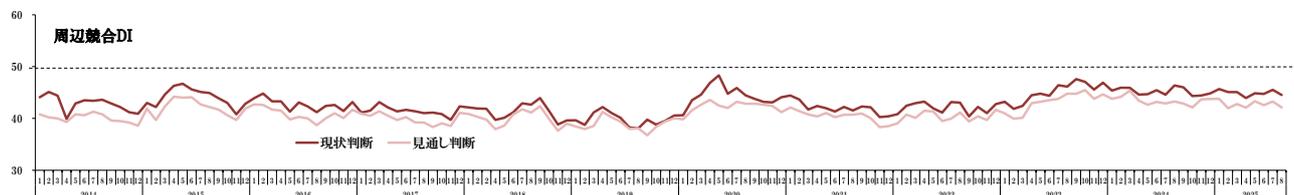
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】購買意欲 (前月)	0.6	24.6	66.5	8.4	0.0	45.7
【現状】購買意欲 (当月)	1.4	29.5	61.6	7.5	0.0	43.8
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】購買意欲 (前月)	1.2	27.7	65.7	5.4	0.0	43.8
【見通し】購買意欲 (当月)	0.7	33.6	58.9	6.8	0.0	43.0



3. 中核店舗周辺競合状況 DI

現状・見通し判断共に小幅な悪化

回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】競合状況 (前月)	1.8	17.4	77.8	3.0	0.0	45.5
【現状】競合状況 (当月)	2.7	18.5	77.4	0.7	0.7	44.5
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】競合状況 (前月)	3.0	22.8	72.5	1.8	0.0	43.3
【見通し】競合状況 (当月)	4.1	24.7	70.5	0.0	0.7	42.1



4. 中核店舗周辺地域景気判断DI

現状・見通し判断共に前月水準で推移

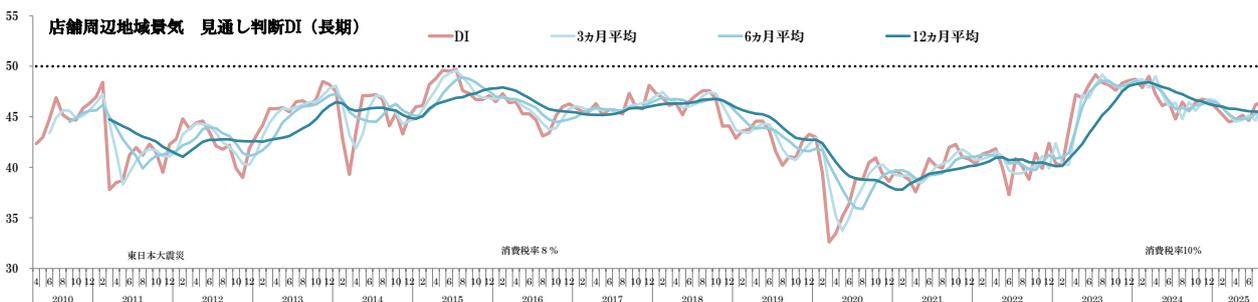
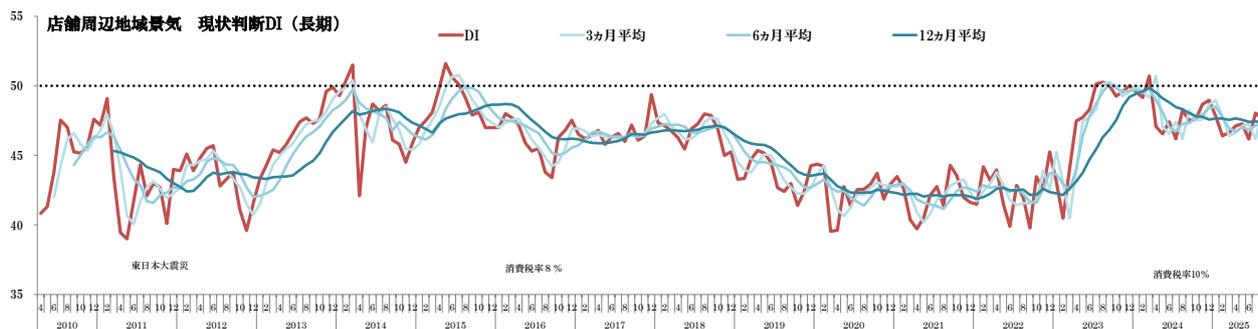
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】地域景気(前月)	0.0	12.7	82.5	4.8	0.0	48.0
【現状】地域景気(当月)	0.0	13.7	82.9	2.7	0.7	47.6
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】地域景気(前月)	0.0	18.8	77.6	3.6	0.0	46.2
【見通し】地域景気(当月)	0.7	17.8	77.4	3.4	0.7	46.4



・中核店舗周辺地域景気判断DI 長期傾向 (2010年4月～)

周辺地域景気判断DIは2011年3月の東日本大震災以降低迷を続けたが、12年11月から16ヵ月にわたる改善が続き、14年3月は現状判断DIが51.5を記録。14年4月の消費税率8%引き上げにより大幅に悪化するも徐々に持ち直し、15年5月には現状判断DIは51.6に達し、調査開始以来の最高値を更新した。その後15ヵ月間にわたり悪化傾向は続き16年9月には、現状判断DIは43.4まで低迷した。

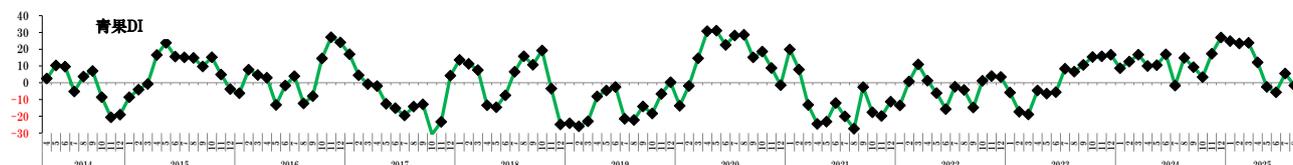
以後方向感の乏しい推移が続いたが、18年の後半から悪化傾向が顕著となり、19年7月には現状判断DIは42.3まで低下した。21年は、感染状況により上下する動きとなった。22年は、感染が再拡大した7月以降に大幅な改善をみせた。23年も改善が続き、7月には判断の分かれ目である50を突破、その後も高水準を維持した。24年前半に悪化したものの、後半は緩やかな改善傾向が続いた。25年に入りダウントレンドが続いているが、夏ころにかけてやや持ち直した。



Ⅲ. カテゴリー別動向

1. 青果 DI：-1.6（やや不調）

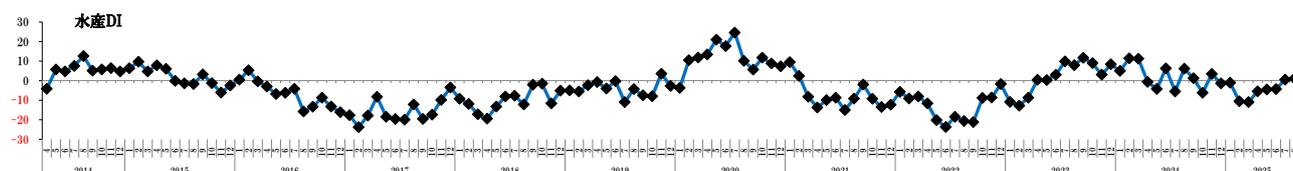
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
青果（前月）	4.4	21.4	32.1	32.1	10.1	5.5
青果（当月）	7.9	30.9	27.3	27.3	6.5	-1.6



青果相場は高温、雨不足などの影響を受け一部高値で推移、販売数量が伸び悩み、やや不調となった。8月も気温が高く、涼味、季節野菜(オクラ、みょうが、しょうが等)は好調。サラダ関連は好調とする店舗、トマトや葉物の品質低下と高値で伸び悩んだ店舗が分かれた。じゃがいも、たまねぎなど土物類は入荷量減少もあり、不調となった地域が多い。一方で果物類は好調に推移し、ぶどうやスイカ、メロン、輸入果物ではキウイフルーツ、またカットフルーツも引き続き好調に推移した。

2. 水産 DI：1.1（やや好調）

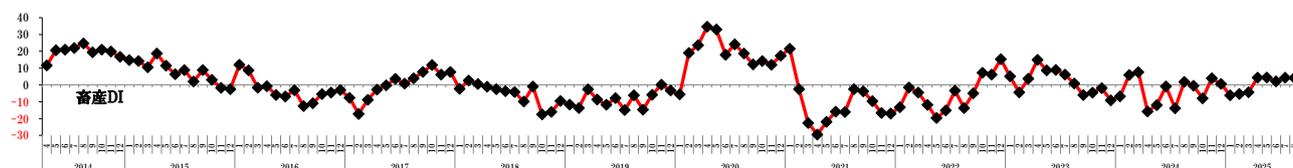
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
水産（前月）	6.4	27.6	30.1	29.5	6.4	0.5
水産（当月）	8.0	24.6	31.9	26.1	9.4	1.1



生サンマが近年としては豊漁の部類でサイズも大きく、売上を大きく伸ばした。お盆時期を中心にマグロなど刺身類の販売が好調。猛暑により、海藻類などサラダ用商材の動きがよかった。今年は「土用の二の丑」があったウナギだが、好調となった店舗がある一方で、単価が下落し前年並みに推移した店舗もみられた。生カツオは不漁で不調とする声が多く、貝類、干物類、魚卵・塩干は厳しい状況が続いた。

3. 畜産 DI：4.2（やや好調）

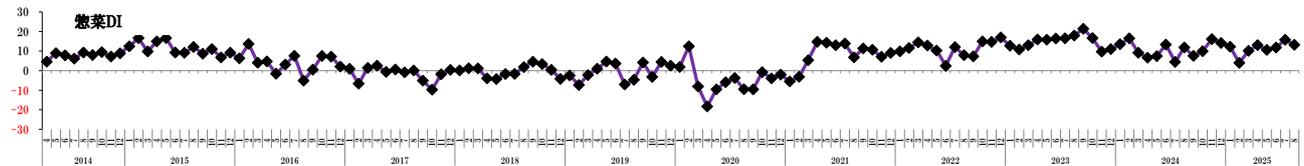
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
畜産（前月）	4.5	25.0	30.1	29.5	10.9	4.3
畜産（当月）	4.3	21.0	37.7	27.5	9.4	4.2



相場の高騰傾向が続く中でも、お盆時期は販売が好調に推移したという店舗が多い。それ以外の時期は、牛肉の不振と豚肉・鶏肉への需要シフトの傾向が継続している。牛肉は国産、輸入共に高値推移が続き、一般的に苦戦傾向だが、雨が少なく休日を中心にBBQ、焼肉需要は好調に推移した。豚肉は国産の価格高騰が続き、比較的安価な輸入豚が好調。鶏肉は価格高騰が続くなかでも販売が堅調となった。ハムなどの加工肉にはやや回復傾向がみられた。利益確保が難しいとのコメントが多くみられた。

4. 惣菜DI：13.2（好調）

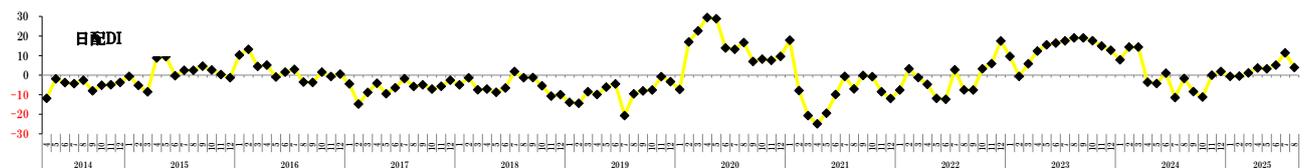
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
惣菜（前月）	0.6	9.0	27.1	52.9	10.3	15.8
惣菜（当月）	1.4	15.2	27.5	40.6	15.2	13.2



コメ価格の高止まりにより、弁当・おにぎりなど米飯類が引き続き好調に推移した。猛暑により、家庭での調理を避ける傾向を追い風に、揚げ物・てんぷら類は堅調に推移。サラダ関連や冷惣菜の動きも良い。夏休みの昼食向けも好調に推移した。一方で寿司類は、お盆時期では予約販売を含め比較的好調に推移したが、それ以外では生食を敬遠してか動きが鈍かったとの声も。焼鳥や餃子などのおつまみ関連、焼きそばなど軽食関連も好調とのコメントが多い。

5. 日配DI：4.0（やや好調）

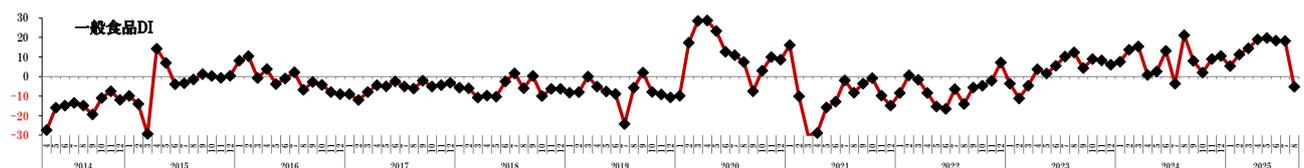
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
日配（前月）	1.9	12.7	34.2	40.5	10.8	11.4
日配（当月）	4.3	18.0	41.7	29.5	6.5	4.0



猛暑の継続により、アイス・氷菓やチルド飲料、涼味麺の好調が継続しているが、一部地域では前年との気温差により伸び悩んだ店舗もみられた。鶏卵は価格高騰が続き好調に推移、売上を牽引した。和日配では、コメ品薄解消もあり納豆や梅干、漬物、ところてんや豆腐など涼味・即食・塩分補給関連の動きがよい。洋日配では乳酸飲料の不振を指摘するコメントがみられ、価格改定のあったチーズ類は伸び悩んだ店舗が多い。パン類は前年台風接近による特需があった反動がみられた。冷凍食品は冷凍野菜を中心に引き続き堅調に推移した。

6. 一般食品：-5.2（やや不調）

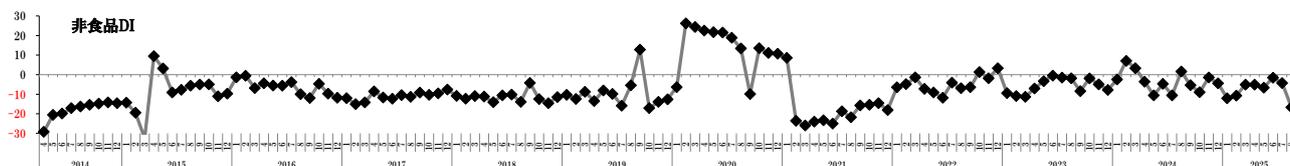
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
一般食品（前月）	1.3	10.3	24.4	42.9	21.2	18.1
一般食品（当月）	9.4	33.1	31.7	20.9	5.0	-5.2



米は、備蓄米の入荷も増えて品薄感が解消し、特に前年品薄となった店舗を中心に好調に推移する一方で、売上に落ち着きが見られはじめたとのコメントも。コメ代替品としてのレンジ米飯、パスタ、インスタント麺類などには、前年の「南海トラフ地震臨時情報」発表による備蓄行動の反動を大きく受けた店舗もみられた。猛暑により素麺、つゆなど涼味食材、飲料やビール・サワー類が好調、コーヒー類の動きもよい。一方でスープ類、油、洋風調味料は伸び悩んだ。

7. 非食品 DI：-16.7（不調）

回答構成比（％）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
非食品（前月）	8.6	34.2	30.9	18.4	7.9	-4.3
非食品（当月）	23.7	38.5	23.0	10.4	4.4	-16.7



前年の南海トラフ地震臨時情報発表や台風接近に備えた、ガスボンベや乾電池など防災関連用品の特需からの反動も大きく影響し、不振となった地域が多かった。一方、猛暑の影響で日焼け止めや制汗剤、保冷剤、熱中症対策商品の動きもよい。衣料用洗剤が好調な一方で台所関連商品が不振とのコメントが多い。殺虫剤・虫ヶア用品は高すぎる気温により伸び悩んだとのコメントもみられた。紙製品は値上げ後に低迷している店舗が多い。ドラッグストアやホームセンターなどとの競合激化を指摘するコメントが引き続き多くみられた。

カテゴリー別 DI による好不調判断

かなり好調：～ 20 好調：20 ～ 10 やや好調：10 ～ 0
 やや不調：0 ～ -10 不調：-10 ～ -20 かなり不調：-20～

2025年9月調査（8月実績）キーワード TOP3

1. 猛暑による夏物商品好調
2. 前年「南海トラフ地震臨時情報」、台風接近による備蓄需要の反動
3. お盆時期の販売が好調

（参考）2024年9月調査（8月実績）キーワード TOP3

1. 防災意識の高まり、備蓄需要
2. 米不足報道による欠品の長期化
3. 相次ぐ台風の影響

スーパーマーケット景気動向調査 集計数

8月実績速報版 146社
 7月実績確報版 167社

スーパーマーケット景気動向調査に関するお問い合わせ

スーパーマーケット統計事務局 tokei@super.or.jp